

「ロバスト統計」(第1版2刷) 正誤表
(藤澤洋徳著)

頁	場所	誤	正
31 頁	下から 2 行目	$\phi(y; 0, \sigma^2)$	$\phi(y; 0, \sigma)$
127 頁	条件 (i)	$D(g, f) \geq D(g, g)$	$D(g, f) \geq 0$
130 頁	条件 (i)	$D(g, f) \geq D(g, g)$	$D(g, f) \geq 0$
133 頁	補題 10.4.1 の 証明の最後	$d_\gamma(\kappa_1 g, \kappa_1 g) - d_\gamma(\kappa_1 g, \kappa_2 f)$	$d_\gamma(\kappa_1 g, \kappa_2 f) - d_\gamma(\kappa_1 g, \kappa_1 g)$

に

伏線の回収

第 3.10.3 節において「重み付き型」を天下りの的に与えています。この伏線は「ガンマ・ダイバージェンスを使うと得ることができる」と書いて後で回収するかのようには書いておりましたが、具体的に回収するのを忘れておりました。具体的には、ガンマ・ダイバージェンスにおいて $f(x; \theta) = \phi(x; \mu, \sigma)$ と置くことで得られます。より具体的には、推定方程式は 132 頁の上から 2 番目のディスプレイした数式から得られ、数値アルゴリズムは (10.2) 式から得られます。具体的な計算には (7.1) 式の考え方が有効です。